

第46回

SCCJセミナー

明日のスキンケアのために今知っておくべき技術

午前の部

午後の部

10:00
～
10:05

開会の挨拶 セミナー委員長 植田光一

10:05
～
10:55

三相乳化エマルジョンと保湿効果

神奈川大学 特別招聘教授 三相乳化プロジェクト 田嶋和夫先生
「柔らかい親水性ナノ粒子」によって油剤を乳化した三相乳化型化粧料はヒト肌に対して、かなり特異的な効果を示すことが最近の研究より明らかとなった。本講演は、先ず「三相乳化技術」の原理と基礎的物性について解説し、次にヒト肌に対する保湿効果の実例を基に、三相乳化エマルジョンと比較系との差異について作用機構の観点から述べる。さらに、O/W型三相乳化エマルジョンは外水相を殆ど除去した乾燥状態でも、エマルジョン構造が保持でき、観察できることから、従来のエマルジョンと異なる特異な物性が発現すること、などについても紹介する。

10:55
～
11:35

欧州・アジア展開に向けた化粧品規制基礎知識

(株)コーセー 研究所 技術情報管理室 田中覚氏
国内化粧品市場の成熟化に伴い、昨今では多くのメーカーが海外市場への展開を進めている。海外における日本品質は化粧品でも信頼されるものの、規制視点で見ると国内規制とは大きな隔りがある為、導入先国の規制情報を充分理解した上で参入しなければ、法令違反により大きなビジネスチャンスを逃すことになりかねない。本演題では、アジア地域の化粧品規制のベースとなっている欧州化粧品規制、及び各国化粧品規制の基礎的な部分を解説し、製剤開発における注意点などを紹介する。

11:35
～
12:40

昼食休憩

■日時 2015年9月15日(火)
10:00～17:35(受付開始9:30)

■会場 **大阪国際交流センター**
<http://www.ih-osaka.or.jp/>
大ホール
フリーディスカッション：同会場
さくらの間 東西

■主催 **日本化粧品技術者会**
TEL 045-590-6025

■参加費 会員：13,000円 / 一般：19,000円
当日受付(会員・一般共に) 19,000円

■申込み期限 2015年9月1日(火)

詳細 ⇒ <http://www.sccj-ifsc.com>

12:40
～
13:20

化粧品における防腐処方設計

～パラベンフリー・防腐剤フリーの実現に向けて～

(株)マンダム 製品保証部 評価分析室 目片秀明氏

消費者が化粧品を使用する際に、使い始めから最後まで安全に安心して使用できることは化粧品が有すべき重要な品質である。一方で、消費者の安全性志向の高まりにより、製品のパラベンフリー・防腐剤フリー化が求められている。本講演では製品の防腐設計をする際の留意点として、防腐剤の特徴や防腐力に影響を与える因子などを中心に述べる。また、多価アルコールなどの防腐剤以外の防腐成分の具体例を示しながら、その抗菌特性と皮膚刺激性についても紹介する。

13:20
～
14:00

スキンケア製品のための容器情報

～容器材質とトラブル事例～

竹本容器(株) 営業部 松本博樹氏

化粧品を入れる容器に対しては、共通の基準、規制が存在せず、各化粧品メーカーや容器メーカーが過去の経験をもとに独自のテスト内容を作りあげてきている。化粧品と容器との相性は今後も重要な確認作業であることは間違いない。今回の講演では、改めて化粧品用途に用いられるプラスチック材質がどのような特徴があるのかを、過去の事例を交えて整理し、それら容器材質と内容物との相性が悪い組み合わせやその理由などを考察する。

14:00
～
14:40

肌のエイジングとトラブル肌の基礎知識

東海大学医学部 客員教授 井上紳太郎先生

アンチエイジングは化粧品にとって永遠のテーマであるが、長寿に伴うQOL向上意識の高まりを背景に近年一層関心が高まっている。科学の進歩により寿命の延長や老化防止を真剣に議論できるようになり、以前は限られた権力者のみが追い求めた不老や永遠の美に対して、私たち庶民でも関心をもてるようになってきた。エイジングに関する化粧品視点での基礎的理解を深めながら、近年の研究動向も踏まえてアンチエイジングを考えたい。

14:40
～
14:50

休憩

14:50
～
15:30

アンチエイジングスキンケア開発への取り組み

(株)資生堂 リサーチセンター 江連智暢氏

顔の形状は加齢と共に大きく多様に変化する。顔には深いシワが刻まれ、頬はたるみ、フェースラインが曖昧になる。こうした変化は老けて見える大きな要因であり、肌悩みの上位に挙げられる一方で、十分な対応がなされていない。これは顔の形状変化の定義や評価法が十分に確立されておらず、メカニズムも明らかでないことが原因と考えられる。今回は、複雑な顔の形状変化をどのように捉え、その原因を明らかにし、製品開発に繋げてきたのかを紹介する。

15:30
～
16:10

化粧品開発における非侵襲皮膚計測技術

エムティーコンサルティング 高橋元次氏

化粧品を考えるうえで重要な品質特性の一つに有用性があげられる。化粧品の効能・効果をより科学的な指標で評価する有用性研究(Evidence Based Cosmetics:EBC)において非侵襲的皮膚計測は必要な技術で、多くの方法が開発され活用されてきた。例えば、皮膚の保湿特性を評価する角層水分量測定では、皮膚表面の電気特性や光学特性から求める方法が広く使われているが、最近ではin vivo 共焦点ラマン顕微鏡が用いられ、角層・表皮の深さ方向における水やNMFの分布状態がわかる。また、皮膚内部の観察においては、超音波やMRI(Magnetic Resonance Imaging)を用いた断層撮影以外に、OCT(Optical Coherence Tomography: 光干渉断層撮影法)、in vivo 共焦点レーザー走査型顕微鏡(confocal laser scanning microscope)、SHG顕微鏡(Second Harmonic Generation: 第二高調波発生)、多光子(励起蛍光)顕微鏡(multi photon microscope)、CARS(Coherent Anti-Stokes Raman Scattering)顕微鏡など、生体顕微鏡とよばれる新しい測定機器が多く開発され、皮膚の組織構造だけでなく皮膚内の成分分析あるいは経皮吸収性などもin vivoで検討可能になってきている。本講演ではこれらの中から化粧品の有用性研究に用いられる皮膚計測技術についてレビューする。

16:20
～
17:30

フリーディスカッション

17:30
～
17:35

閉会の挨拶 セミナー副委員長 栗山健一